



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.91
六甲の昆虫と植物をめぐる世界/今給黎 靖夫
2010年10月発行

第91回テーマ： 六甲の昆虫と植物をめぐる世界

講演内容

- 昆虫と植物との不思議な関係
- 六甲の自然から学ぶこと
- 自然を魅力的に撮影するテクニック



摩耶山に由来する
マヤラン

実施日：平成22年10月16日（土）
午後1時～3時45分
場 所：六甲山自然保護センター



講師：今給黎 靖夫さん
(プロフィール)

1952（昭和27）年生まれ、57歳、鹿児島県出身。鹿児島大学大学院農学研究科修了。日本自然科学写真協会会員、日本昆虫学会会員。自然写真家。身近な自然の魅力を講演や観察会等で紹介している。

六甲山は晩秋の行楽日和

朝の六甲山の記念碑台は25℃の清々しい天気です。いつもより大勢のハイカーで賑わっていました。午前中の環境整備の定例活動には12名が参加し、散策路の植生調査やアセビ実験区の環境調査や樹木調査などに精を出しました。

午後の市民セミナーは32名という予想以上の参加者で、植物や環境問題に関心の深い方を見受けました。

昆虫と植物の生態系、そして自然史の探究

講師の今給黎 靖夫さんはプロの自然写真家として活躍されています。昆虫への関心から食草・食樹となる植物との関係や生態系に視点を広げ、現在は環境との関係や変遷など、「生物の自然史」を研究の焦点にされています。

美しい生物写真を撮られるだけでなく、レッドデータブックに掲載される希少生物の保護や、環境問題にも関わっておられます。今給黎さんの活動はパイオニア・ワークとして注目されています。

六甲山ゆかりの昆虫と植物の世界に触れた

講演の序盤で、里山が昆虫や春植物を守ってきたことをギフチョウなどを例に話されました。その里山林や草原など生息環境が衰退していると懸念されました。

続いて六甲山の800m付近に生息する指標昆虫のエゾゼミとブナの分布を紹介し、いずれも100年後にはいなくなる運命だと説明されました。

動植物種が氷上回廊を行き来して生息範囲が広がっていると説明されて、六甲山にゆかりの名前を持つ幻の昆虫に話が進みました。マヤサンオサムシやマヤサンコブヤハズカミキリについて、詳しく説明されたので、幻の昆虫が見られなくなったのは森林の荒廃などが原因であると理解できました。



幻の昆虫 マヤサン
コブヤハズカミキリ

今給黎さんは去年、三木でマヤランを発見されています。生息環境が揃えば、六甲でもマヤランの生育は可能だろうとのこと。そして、多様な生き物を念頭に置いて里山林を維持管理することが重要だと強調されました。



熱心に話を聞く参加者

最後に特別講座として「魅力的な写真の撮り方」のコツを話されました。構図の取り方や、「3脚よりも1脚がいい」というお奨めに、参加者は大きくうなづきました。

里山管理の重要性を啓発された

豊富な内容を美しい写真を使ってご説明いただき、専門的なお話を身近に感じました。最後に自然写真の撮り方までお教えいただき、行き届いたサービスに感謝します。

昆虫や植物という話から、生き物の生息環境を維持管理することを触発されたのが、予想外で貴重な収穫でした。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 宮元 佳代子 さん

今回初めて参加させて頂きました。きっかけは先日、ヴォーリーズの六甲山荘を訪ねた時に自然保護センターに立ち寄り、チラシを手にしました。もともと植物に興味があったので、早速申込した次第です。今給黎氏の蝶の本も手近にあったので、ちょっと得をした気分でした。



実際、講演ではめずらしい昆虫、貴重なお話で、知識もふくらみました。「六甲山を活用する会」に今後も参加したいと思いました。どうも有難うございました。

【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会